経済・金融フラッシュ

ロシアの物価状況（23 年 8 月）
－インフレ率の上昇が続く

経済研究部　主任研究員　高山　武士
TEL:03-3512-1818　E-mail: takayama@nli-research.co.jp

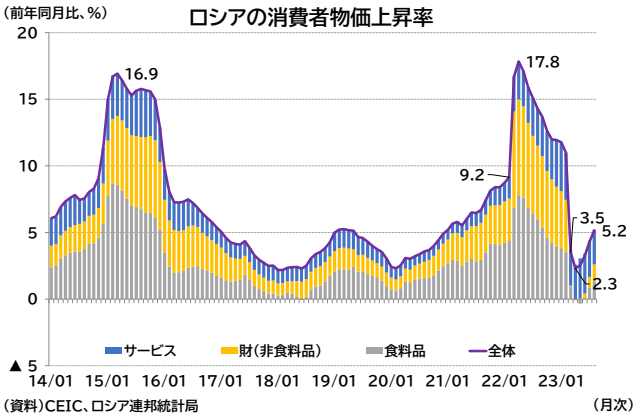
1. 結果の概要：前年比では 5%台に上昇

9 月 8 日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

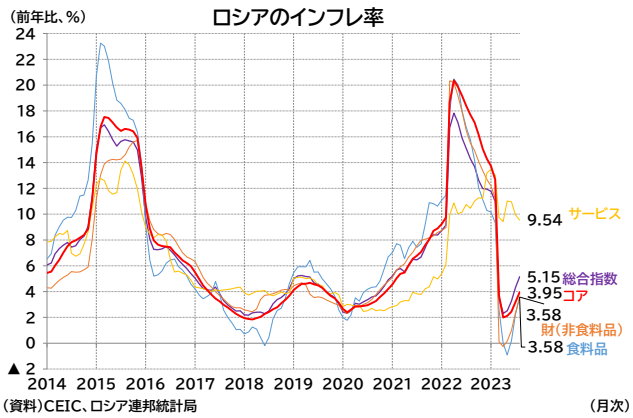
【総合指数（23 年 8 月）】
- 前年同月比は 5.15%、市場予想[1]（5.10%）より上振れ、前月（4.30%）から上昇（図表 1）
- 前月比は 0.28%、市場予想（0.26%）より上振れ、前月（0.63%）から低下

【コア指数[2]（23 年 8 月）】
- 前年同月比は 3.95%、前月（3.18%）から上昇した（図表 2）
- 前月比は 0.75%、前月（0.53%）から上昇した

（図表 1）



（図表 2）



2. 結果の詳細：財物価へのインフレ圧力が高まる

8 月のロシアのインフレ率は前年比で 5.15%となり、7 月の 4.30%から上昇した。4 か月連続で上昇し、ベース効果で 3 月以降の伸び率が低下して以降では最も高い伸び率となった。ロシア中銀のインフレ目標（4%）も 2 か月連続で上回ったことになる。

なお、ルーブル下落やインフレ圧力の高まりを受けて、ロシア中銀は 8 月 15 日に臨時の政策金利を 3.50%ポイント引き上げている（9.5%→12.0%、また、7 月 21 日には定例会合で 1.00%の利上げを実施していた）。

インフレ率を大分類別に見ると、8 月の前年比伸び率は食料品が 3.58%、財（非食料品）が 3.58%、

[1] bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。
[2] 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

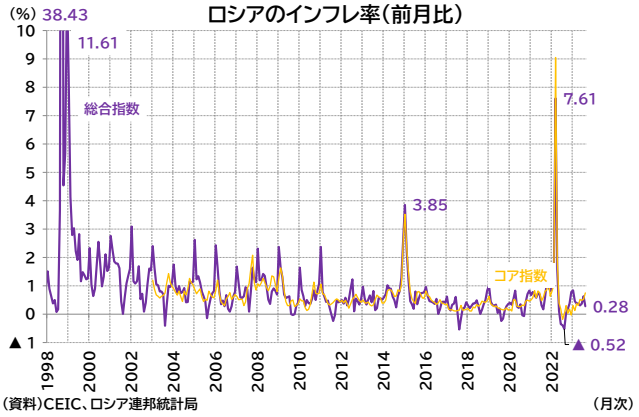
 | Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

サービスが 9.54%となっている。食料品および財は 6 月の前年比 0%台から 3%台半ばまで上昇した。この間、サービス物価の伸び率はやや減速しているが、依然として 10%前後の高い伸び率が維持されている。前年比寄与度ではサービスが 2.6%ポイント程度、食料品と財（非食料品）がそれぞれ 1.3%ポイント程度となっている（図表 1）。

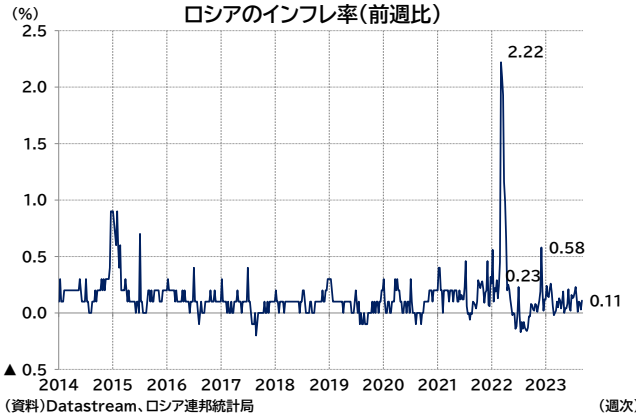
7 月の前月比伸び率は、総合指数で 0.28%、コア指数で 0.75%となった。総合指数はコロナ禍前の標準的な上昇率を下回ったが、コア指数の物価上昇圧力は高い（例えば 2018 年の前月比伸び率は平均で総合指数が約 0.35%、コア指数が約 0.30%、図表 3）。大分類では食料品が▲0.06%、財（非食料品）が 1.14%、サービスが▲0.32%となり、財が伸びをけん引している。

一方で、別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、前週比上昇では最新の 9 月 4 日時点の前週比で 0.11%となった（図表 4）。

（図表 3）

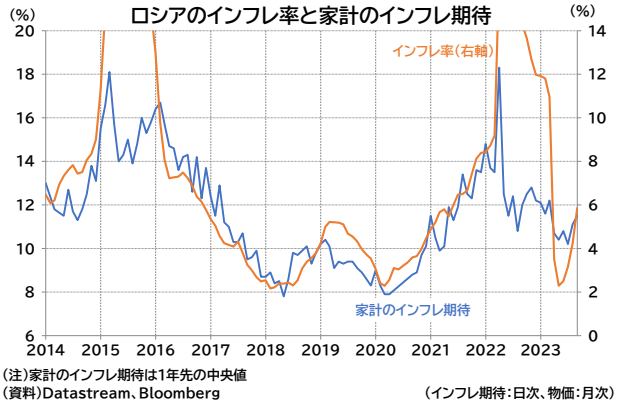


（図表 4）



ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1 年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は、8 月で 11.5%となり、2 か月連続で上昇した。期待インフレ率と実際のインフレ率との関係は過去とほぼ同様の状況となり（期待インフレ率≒前年比インフレ率＋6%）、足もとではやや加速している（図表 5）。

（図表 5）



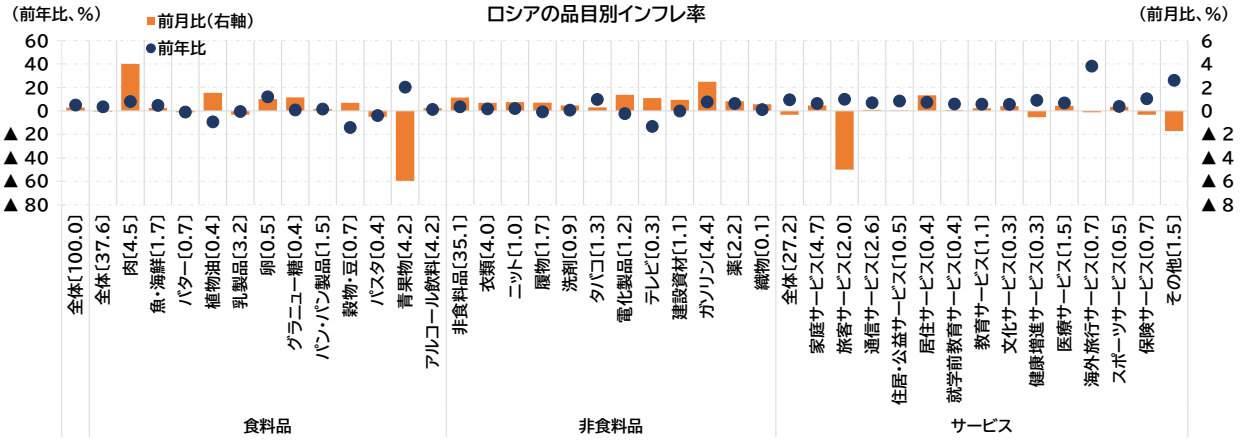
品目別の上昇率を見ると[3]（図表 6）、8 月は前年比で海外旅行サービス（38.28%）、その他サービス（26.12%）、青果物（20.41%）の伸び率が高い。一方、穀物・豆（▲14.06%）、テレビ（▲13.11%）、植物油（▲9.28%）の下落が目立つ。

前月比では、肉（4.01%）、ガソリン（2.49%）、植物油（1.54%）、電化製品（1.38%）の上昇率が相対的に大きく、青果物（▲5.96%）、旅客サービス（▲5.00%）、その他サービス（▲1.71%）が相対的に大きく下落した。

[3] 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、統計局のウェブサイトで公表しているものを記載。

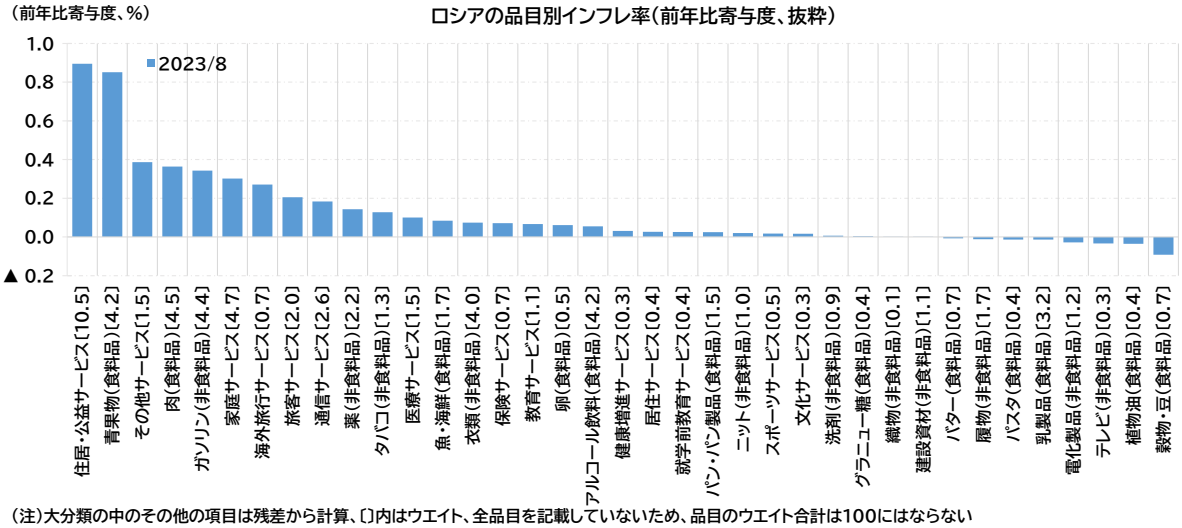
Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

（図表 6）



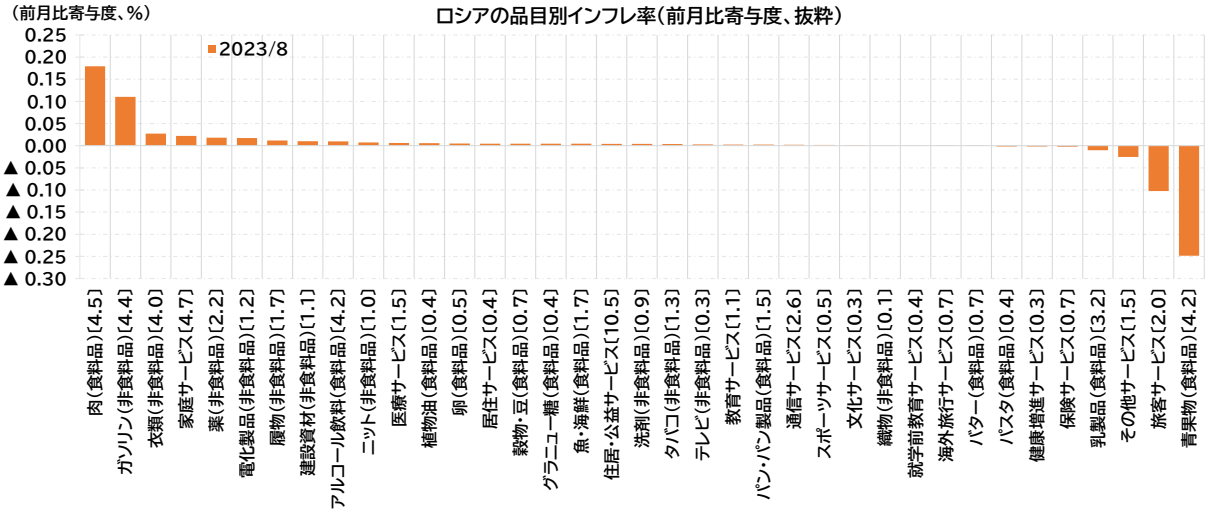
（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、〔〕内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 7）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、〔〕内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 8）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、〔〕内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

 Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

各品目の消費ウエイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると（図表 7・8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は住居・公益サービス（0.90%ポイント）、青果物（0.85%ポイント）、その他サービス（0.39%ポイント）、肉（0.36%ポイント）、ガソリン（0.34%ポイント）、家庭サービス（0.30%ポイント）、海外旅行サービス（0.27%ポイント）だった。一方、穀物・豆（▲0.09%ポイント）は前年比でのマイナス寄与が相対的に大きい。

前月比上昇率の寄与では肉（約 0.18%ポイント）、ガソリン（約 0.11%ポイント）の押し上げ寄与が大きく、青果物（約▲0.25%ポイント）、旅客サービス（約▲0.10%ポイント）は押し下げに貢献している。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。